

Outline & Ticket

イスラエル博物館所蔵 印象派・光の系譜 — モネ、ルノワール、ゴッホ、ゴッガン

会期	2021年10月15日（金）～ 2022年1月16日（日）
休館日	月曜日と年末年始の12月31日、2022年1月1日 （但し、10/25・11/29・12/27〔トークフリーデー〕と1/3・1/10は開館）
開館時間	10時～18時（祝日を除く金曜と会期最終週平日、第2水曜日は21時まで） ※入館は閉館の30分前まで
入館料・当日券	一般：1,900円 高校・大学生：1,000円 小・中学生： <u>無料</u>
前売券	一般のみ：1,700円 ※大学生以下の設定はありません。
前売券販売情報	〈期間〉6月30日（水）～10月14日（木） ・ローソンチケット（Lコード：34468） ・セブンチケット（セブンコード：090352） ・チケットぴあ（Pコード：685-719） ・e+（イープラス）

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、入場を制限させていただく場合がございます。

諸事情により、会期や開館時間等について変更する場合がございます。ご来館の際は展覧会サイトをご確認ください。

お得なチケット!

マジックアワーチケット（毎月第2水曜日17時以降に限り適用）：1,200円

※マジックアワーチケットは、実施月の1日に「Webket」内にて販売開始となります。

※価格はすべて税込 ※障がい者手帳をお持ちの方は半額、付添の方1名まで無料

当館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応を行っております。

ご来館の際の注意事項などは当館WEBサイトをご覧ください。また、本展覧会・開館時間等の最新情報も当館のWEBサイトでお知らせしておりますので、あわせてご確認いただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
各時間の入場人数に上限を設けています。

- ・入場の際は、日時指定券をお持ちの方を優先的にご案内いたします。
日時指定券は順次当館WEBサイトを通じて販売いたします。
- ・人数が上限に達した場合は、次の時間帯をご案内させていただきます。
- ・学生割引・障害者手帳割引、MSS会員の同伴者割引でご来場される方は当館のチケット窓口のみでの販売となります。

ACCESS



- JR「東京」駅(丸の内南口)徒歩5分 ●JR「有楽町」駅(国際フォーラム口)徒歩6分
●都営三田線「日比谷」駅(B7出口)徒歩3分 ●東京メトロ千代田線「二重橋前」駅(1番出口)徒歩3分
●東京メトロ有楽町線「有楽町」駅(D3/D5出口)徒歩6分 ●東京メトロ丸ノ内線「東京」駅(地下道直結)徒歩6分

主催：三菱一号館美術館、イスラエル博物館(エルサレム)、産経新聞社

後援：イスラエル大使館

協賛：DNP大日本印刷

協力：野崎印刷紙業

展覧会サイト：<https://mimt.jp/israel>

美術館サイト：<https://mimt.jp/>

お問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル)

- 報道関係お問い合わせ先

「印象派・光の系譜展」広報事務局(株式会社OHANA内)

担当／妹尾、細川、高橋

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F

Tel : 03-6869-7881 Fax : 03-6869-7801 E-mail:mimt-pr@ohanapr.co.jp

表：クロード・モネ《睡蓮の池》(部分) 1907年 油彩/カンヴァス 101.5×72.0cm

イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem

三菱一号館美術館

MITSUBISHI ICHIGOKAN MUSEUM, TOKYO

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-6-2

イスラエル博物館所蔵

印象派・

—モネ、ルノワール、
ゴッホ、ゴーガン

光の系譜

あなたの知らない
モネ
が来る。

The Genealogy of Light:
Impressionist Masterworks from The Israel Museum, Jerusalem

初来日
作品多数!

2021.10.15.fri
~2022.1.16.sun

三菱一号館美術館

日本初出展の名品多数！

イスラエル博物館が所蔵する、
印象派の名品選コレクション。

はじめに

「イスラエル博物館所蔵 印象派・光の系譜」展は、エルサレムにあるイスラエル博物館が誇る印象派とポスト印象派のコレクションから、水と水面が映し出す反映をたたえた風景、自然とともに人の営みが描き出された風景、近代都市の情景、そして肖像画と静物画をテーマとする4つの章のもとに構成されます。

同館が1965年の開館以来蓄積してきた約2,500点の近代美術のコレクションのうち、これまでに我が国で公開されたことのある作品は、ごく一部にすぎません。バルビゾン派が先行した印象派の誕生と発展をたどり、ポスト印象派の画家の達成を示す作品の数々を展覧する本展出品作品の大多数は、わが国に初めてもたらされる優品が占めています。

初 左記の印がついたものが、初来日作品です。

本展3つの見どころ



日本初！
イスラエル博物館が所蔵する
印象派の名品選



印象派の光の系譜をたどる
珠玉の作品群



モネ、ファン・ゴッホ、ゴッガン etc...
画家たちのピーク時の傑作が一堂に

イスラエル

光
の
系
譜

ゴッホ、ゴッガン

The Genealogy of Light:
Impressionist Masterworks
from The Israel Museum,
Jerusalem

博物館所蔵

印象派

— モネ、ルノワール、



the israel museum, jerusalem

イスラエル博物館（エルサレム）について

地中海に面する中東の国・イスラエル最大の文化施設であり、世界有数の芸術・考古学博物館として年間およそ92万人が来場しています。1965年に設立された同館は、60,705㎡（15エーカー）の広大な敷地に、先史から現代までの幅広いコレクションを多数展示しており、数日かけても見切れないほどです。2,000年前の世界最古の聖書「死海文書」を所蔵する「死海写本館」や、イサム・ノグチによって設計された第二神殿時代のエルサレムを再現した「ビリー・ローズ・アート・ガーデン」も人気のスポットです。国内外からの比類なき寄贈による50万点に及ぶ所蔵品には、本展でご紹介する印象派とポスト印象派の豊かで包括的な傑作コレクションも含まれています。

The Israel Museum, Jerusalem, is Israel's foremost cultural institution and one of the world's leading encyclopedic museums, attracting approximately 920,000 visitors annually. Founded in 1965, the Museum's terraced 15-acre campus houses a wide-ranging collection of art and archaeology of world-class status.

Other popular attractions include the Shrine of the Book, which houses the 2,000-year-old Dead Sea Scrolls, the world's oldest biblical manuscripts; an extensive model of Jerusalem in the Second Temple Period; the Billy Rose Art Garden designed by Isamu Noguchi.

Over the years, the Museum has built a far-ranging collection of nearly 500,000 objects through an unparalleled legacy of gifts and support from a wide circle of friends and patrons throughout the world, including the rich and comprehensive collection of Impressionist and Post-Impressionist masterpieces.



©Timothy Hursley, Courtesy The Israel Museum, Jerusalem.

水の風景と反映

Waterscape and Reflection

移ろいゆく自然の瞬間をとらえた印象派は、工業化と都市化が進む19世紀後半のフランスで活躍しました。当時の画壇において権威を誇ったアカデミーのヒエラルキーでは下位に位置付けられていた風景や室内、近代的な日常生活など、身近な主題を好んで描きました。続くポスト印象派は、印象派の主題を踏襲しながらも、独自の表現を達成しました。本章では印象派の画家が特に好んだ、水と水鏡の反映を通して、印象派の風景表現の特質を浮き彫りにします。



初

アルフレッド・シスレー

《ロワン川のほとり、秋の効果》1881年 油絵/カンヴァス 65.7×81.7cm

イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Max Richardson



初

ジャン＝バティスト・カミュー・コロ

《川沿いの町、ヴィル＝ダヴレー》1855-56年頃 油彩/カンヴァス 44.5×73.5cm

イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Einat Arif & Yossi Galanti



初

ウジェーヌ・ブーゲン

《港に近づくフリゲート艦》1894年 油彩/カンヴァス 45.7×65.5cm

イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Elie Posner

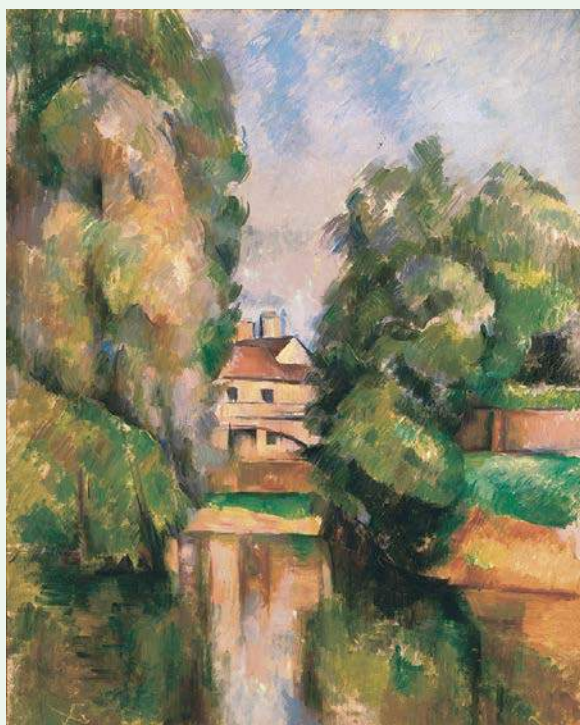


初

ギュスターヴ・クールベ

《海景色》1869年 油彩/カンヴァス 54.0×66.5cm

イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Elie Posner



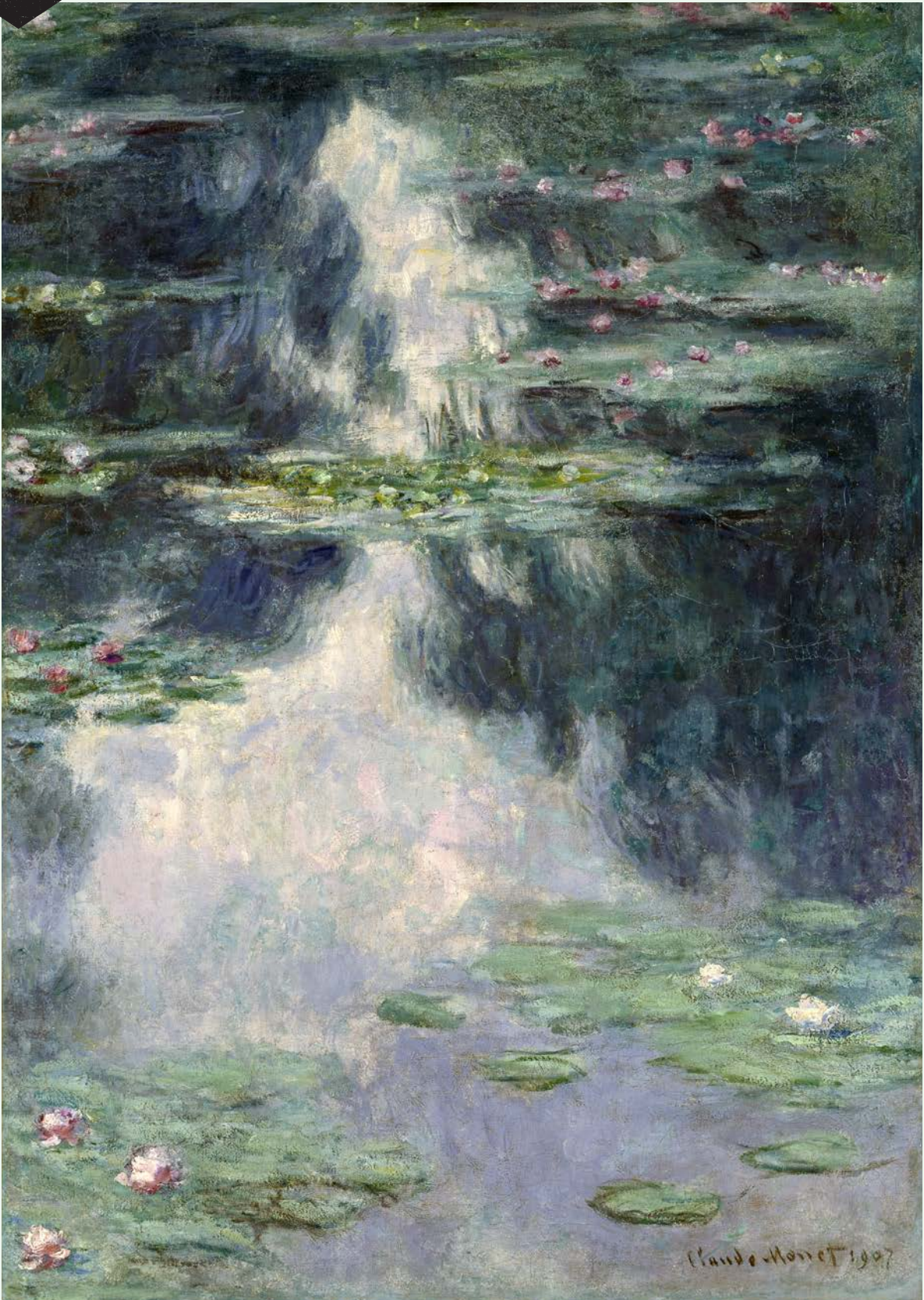
初

ポール・セザンヌ

《川のそばのカントリーハウス》1890年頃 油彩/カンヴァス 81.0×65.0cm

イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Pierre Alain Ferrazzini

初来日!



クロード・モネ
《睡蓮の池》1907年 油彩/カンヴァス 101.5×72.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem

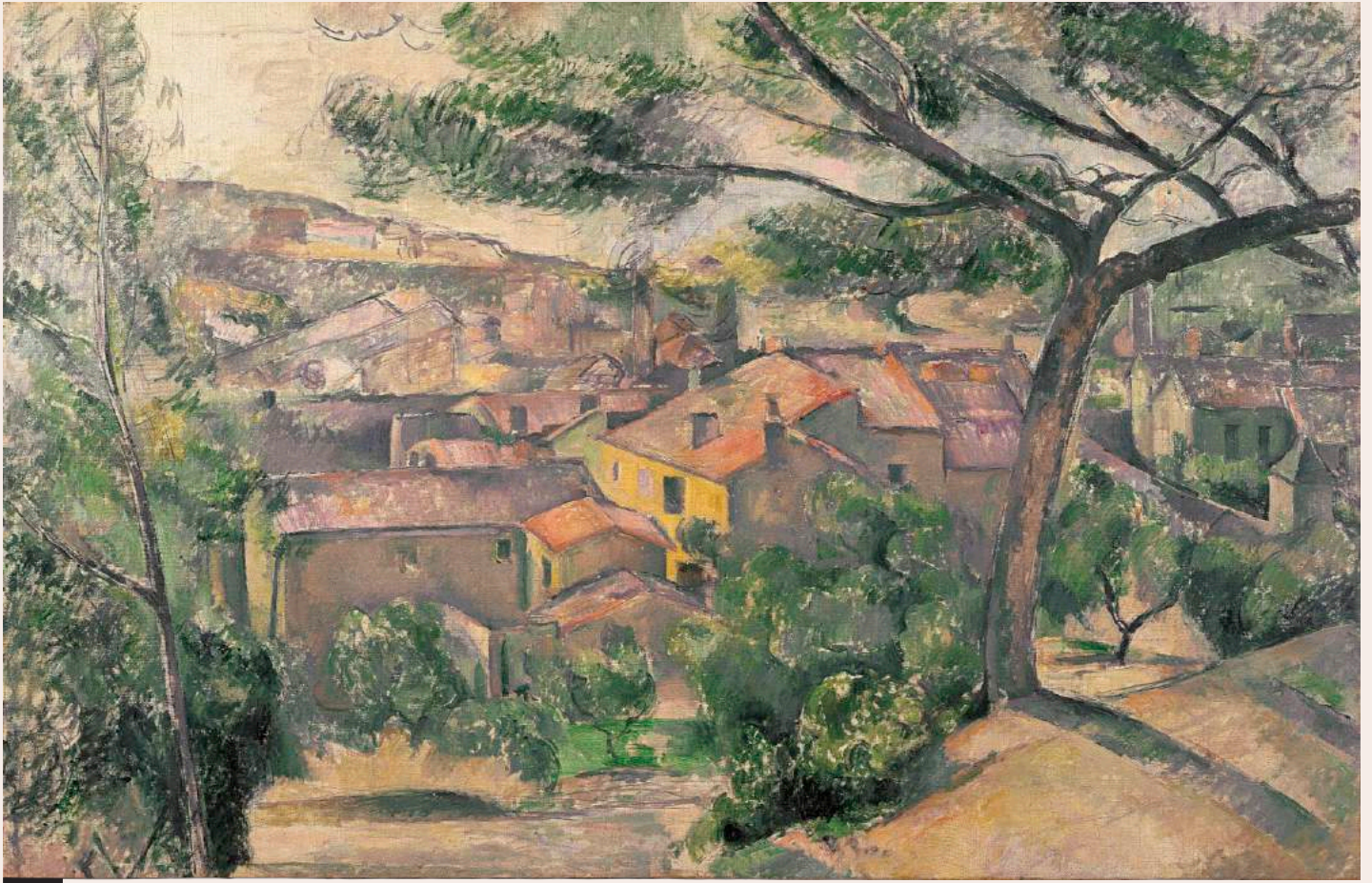
POINT!

異なる季節や時間、天候のもとで同じ場所を描いた「連作」には、印象派の表現の特徴が集約されています。本作は、1909年の「睡蓮：水の風景連作」展に出品された、48点の「睡蓮」の「連作」のうちの1点です。

CLAUDE MONET

自然と人のいる風景

Nature and Figural Landscapes



初

ポール・セザンヌ
《陽光を浴びたエスタックの朝の眺め》1882-83年 油彩/カンヴァス 60.5×92.5cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by David Harris



初

カミーユ・ピサロ
《エラニーの目没》1890年 油彩/カンヴァス 65.2×81.3cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem

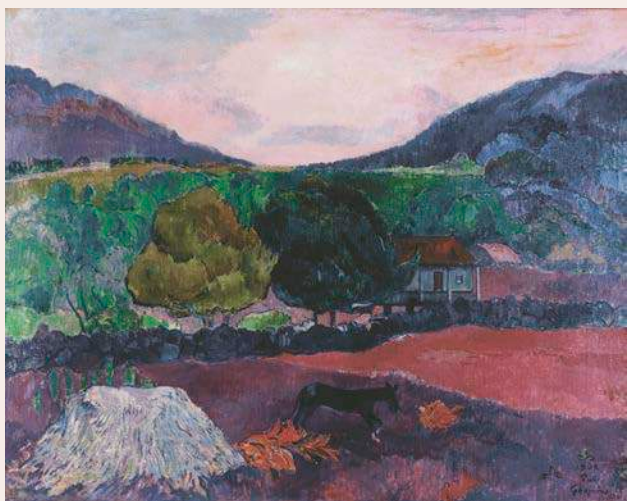


フィンセント・ファン・ゴッホ
《麦畑とポピー》1888年 油彩/カンヴァス 54.5×65.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Elie Posner



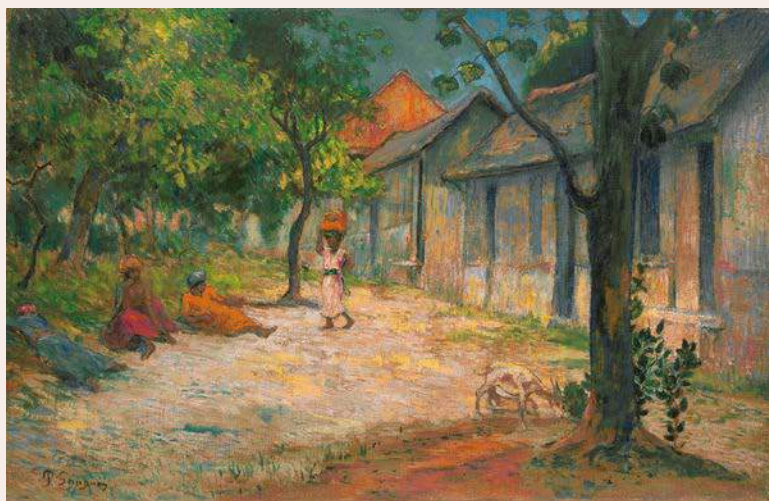
初

シャルル=フランソワ・ドービニー
《花咲くリンゴの木》1860-62年 油彩/板 26.5×40.5cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital



初

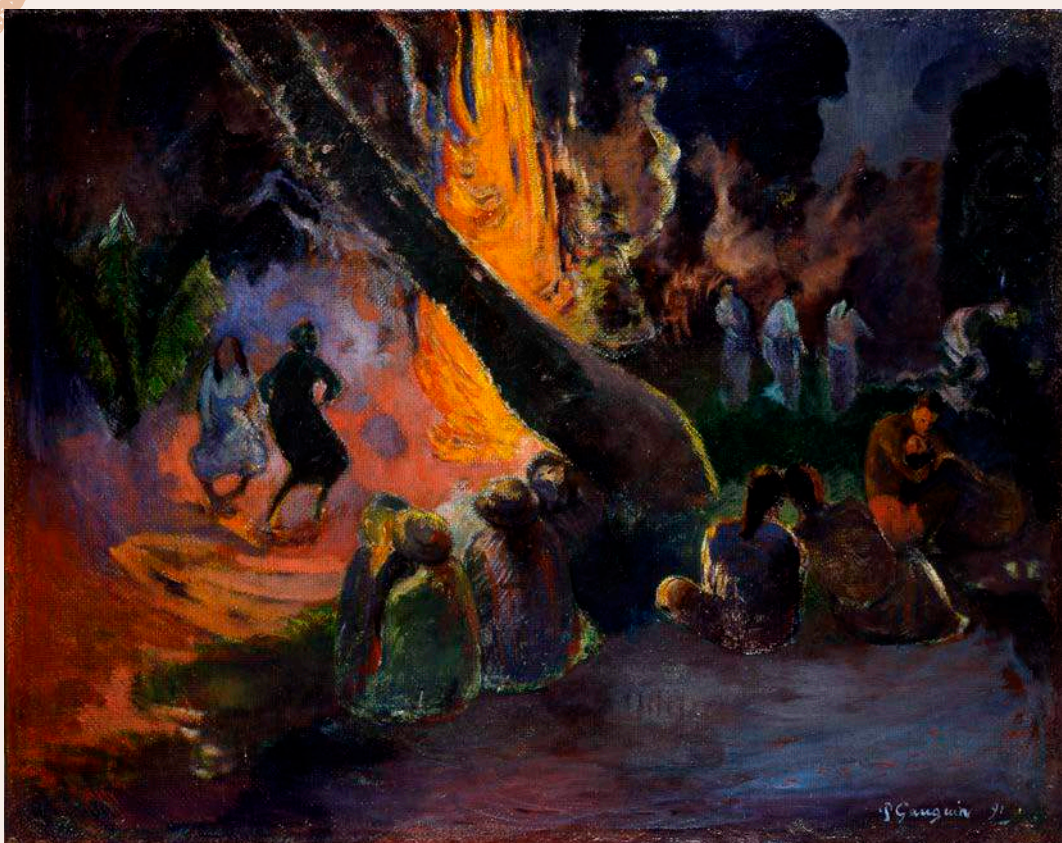
ポール・ゴーガン
《夫のいる風景》1903年 油彩/カンヴァス 73.5×92.5cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital



初

ポール・ゴーガン
《マルティニークの村》1887年 油彩/カンヴァス 45.7×71.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital

1850年代半ばに活躍したバルビゾン派をはじめとするフランスの風景画家たちは、風のそよぎ、梢の揺らぎといった、自然のささやかなエピソードに画趣を見出しました。印象派の画家たちは、バルビゾン派が得意とした身近な自然の営みの表現とともに、野外での労働という主題も受け継ぎながら、セーヌ川やオワーズ川の流域にモチーフを求めました。印象派の主題は、ポスト印象派も継承しました。本章では自然、そして人のいる風景を取り上げます。



ポール・ゴーガン
《ウバ ウバ(炎の踊り)》1891年 油彩/カンヴァス 72.6×92.3cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital

POINT!

1891年6月にタヒチの首都パペーテでゴーガンを待ち受けていたのは、近代化・西歐化の進んだ島でした。本作は原始生活の名残を求めてマタイエアに移住する前後に制作され、公的には禁じられていた官能的な踊りが描かれています。

PAUL
GAUGUIN

POINT!

1888年6月ファン・ゴッホは、収穫期の麦畑とそこで働く人々を題材に、10枚の画布に着手しました。この刈り入れの連作は、パリでの画家修業を経てアルルに移り住んだ画家が、意欲的に取り組んだうちの1点が本作です。



フィンセント・ファン・ゴッホ
《プロヴァンスの収穫期》1888年 油彩/カンヴァス 51.0×60.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital

初

VINCENT
VAN GOGH

都市の情景

Cityscapes



初

カミーユ・ピサロ

《テュイルリー宮庭園、午後の陽光》1900年 油彩/カンヴァス 74.4×91.9cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem

POINT!

田園を描き続けてきたピサロは、1896年頃から都市の情景を描き始めます。1900年にルーヴル宮から続くテュイルリーの庭園の一角に画家がイーゼルを据えた時、遠方では万博にあわせて開業を目指すオルセー駅の工事が進んでいました。



初

レッサール・ユリイ

《夜のポツダム広場》1920年代半ば 油彩/カンヴァス 79.6×100.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital



初

カミーユ・ピサロ

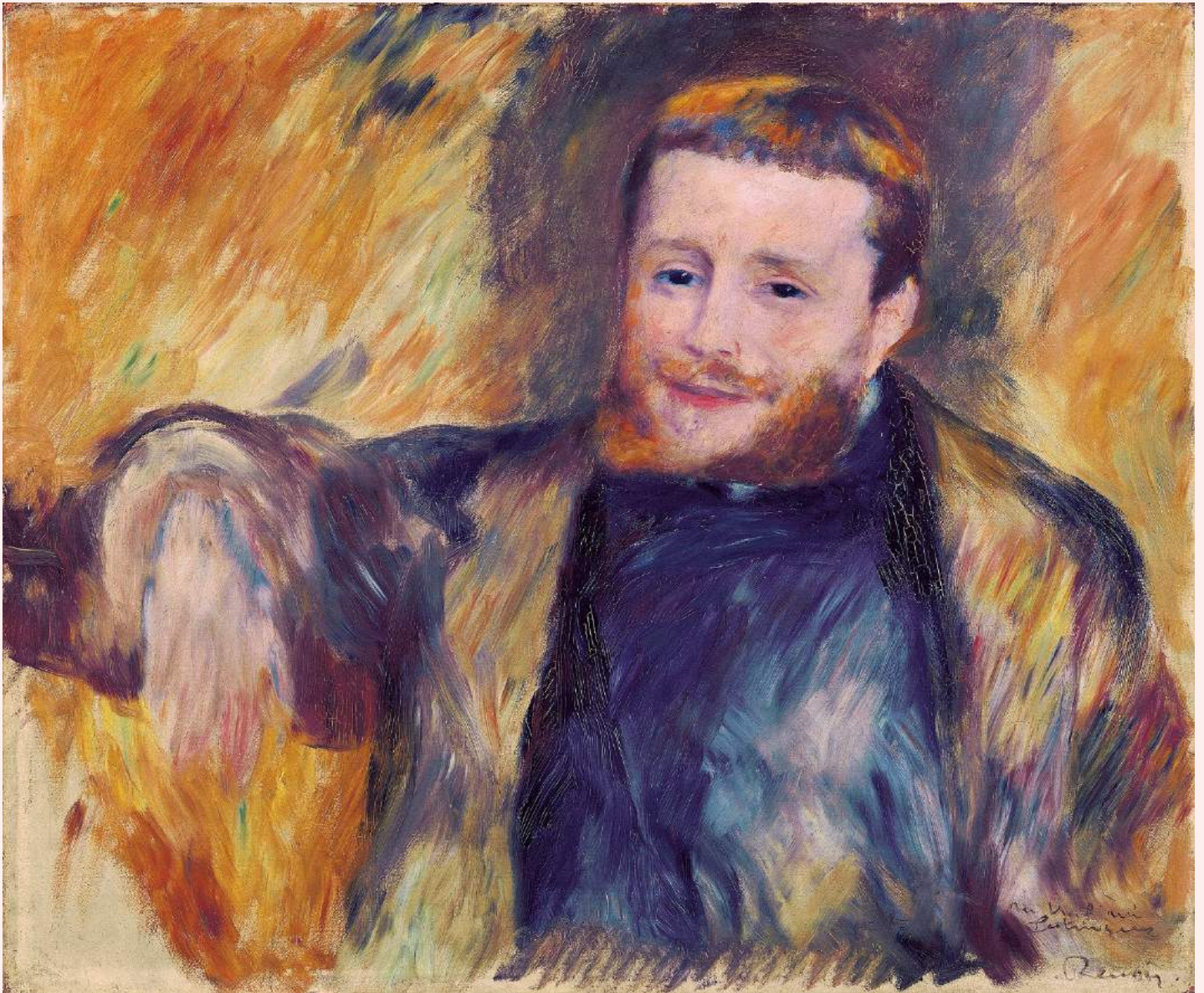
《ボントワーズの工場》1873年 油彩/カンヴァス 38.0×55.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Max Richardson

バルビゾン派の風景画家たちは、冬になると村を去り、都会で生活していましたが、街を主題とすることはほとんどありませんでした。対照的に印象派とそれに続く画家たちは、しばしば都市景観そのものを描き出しています。作家のエミール・ゾラは、「先人たちが森や川の詩を発見したように、今日の画家たちはいま、鉄道駅の詩を発見せざるを得ない」と述べました。本章ではゾラが指摘した変化を敏感に取り入れた印象派と、その後継者たちが描き出す、都市の容貌を展観します。

人物と静物

People, Portraits and Still Life

PIERRE-AUGUSTE RENOIR



初

ピエール=オーギュスト・ルノワール
《レストランの肖像》1878年 油彩/カンヴァス 54.6×66.2cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Max Richardson

POINT!

役人のレストランは《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》(1876年、オルセー美術館)と《舟遊びの昼食》(1881年、フィリップス・コレクション)のためにポーズし、また画家のアルジェリア旅行にも同行した、ルノワールの友人でした。



初

エドゥアル・ヴエイヤール
《長椅子に座るミシア》1900年頃 油彩/板の上に厚紙 61.0×63.0cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem

印象派は、同時代の人の表情、しぐさなど、日常生活の何気ない瞬間までもとらえようとしていました。かつて詩人のボードレールが、日常生活のさりげない表現を「造形的スラング（俗語）argot-plastique」と名付け、アカデミーの芸術家が追及した堅苦しい公的表現との差異化を図ったことが想起されます。日常の瞬間を切り取る印象派の特性は、ポスト印象派にも受け継がれ、肖像画そして静物画においても、日々の暮らしを表現することが好まれました。

10



初

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《花瓶にいられた薔薇》1880年頃 油彩/カンヴァス 58.8×74.1cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem



初

ピエール・ボナール
《食堂》1923年 油彩/カンヴァス 77.0×75.5cm
イスラエル博物館蔵 Photo © The Israel Museum, Jerusalem by Avshalom Avital